

わ だ やま こ ふん ぐん
和田山古墳群

—— 民間開発（宅地造成）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

2008年3月

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は、群馬県高崎市箕郷町和田山字地藏堂448他に所在する和田山古墳群(市道跡番号407)の発掘調査報告書である。
2. 本調査及び整理作業は高崎市教育委員会が、委託契約を締結した技研測量設計株式会社の協力を得て実施した。
3. 発掘調査の体制は、下記のとおりである。
高崎市教育委員会 神戸聖語 田口一郎 斎藤寛方
技研測量設計株式会社 宇佐美義春(日本考古学協会会員)
4. 発掘調査は、平成19年9月18日より10月9日まで実施した。調査面積は約300㎡である。
5. 本書の編集及び「Ⅰ 調査に至る経緯」は、高崎市教育委員会が行い、他の執筆は宇佐美が行った。
6. 本書の挿図図版はデジタル処理によるものである。
7. 調査に関わる記録図面、写真、遺物等は高崎市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査にあたっては、瀬田哲夫、永井智教両氏のご協力とご助言を賜った。また、表土掘削及び石室石材除去に際しては、株式会社 中島土木のご協力を頂いた。記して謝意を表します。
9. 発掘調査参加者は下記の通りである。(50音順、敬称略)
内嶋勝義 小田切勝巳 加部五郎 坂口 登 間庭啓治 三原昭夫 吉澤栄一

凡 例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行「下室田 1/25,000」(昭和49年11月30日発行)である。
2. 各挿図の縮尺は、それぞれに付してある。
3. 全体図・挿図の方位は、「座標北」で、国家座標第IX系を使用している。
4. 土層の色調は、農林省農林水産技術会議事務局 財団法人・日本色彩研究所監修「新版 標準土色帖」によった。
5. 本書における各テフラ表記は、下記の通りである。
As-C 浅間Cテフラ(推定4世紀中葉降下)
As-B 浅間Bテフラ(推定1108年降下)
6. 古墳名称は、和田山古墳群の既調査の名称は踏襲せず、平成19年度調査における1・2号墳とした。
7. 周掘土層は、1・2号墳共通の土層番号としてある。

目 次

例 言	
凡 例	
目 次	

I 調査に至る経緯	1
II 調査方法と経過	1
III 遺跡の位置と環境	2
IV 基本層序	3
V 検出された遺構と遺物	4
VI ま と め	9

写真図版
報告書抄録

挿図図版目次

第1図 遺跡位置図	2	第4図 1号墳	6
第2図 基本層序	3	第5図 1号墳石室	7
第3図 遺跡全体図	4	第6図 2号墳	8

写真図版目次

PL. 1	遺跡遠望（南東より） 調査前全景（北側 北より） 調査前全景（中央部 南より） 基本土層 遺跡全景（南より） 調査風景（1号墳）
PL. 2	1号墳現況（北西より） 1号墳現況（南東より） 1号墳全景（北西より） 1号墳周掘土層（南側） 1号墳周掘土層（北側）
PL. 3	1号墳石室全景（南東より） 石室全景（北西より） 石室全景（北より） 石室全景（南より） 奥壁（南東より）
PL. 4	左側壁 右側壁 掘り方・裏込め（左側壁） 掘り方・裏込め（右側壁） 掘り方・裏込め（奥壁） 左側壁南端部（北西より） 裏込め状況（北西コーナー） 裏込め状況（北東コーナー）
PL. 5	2号墳全景（南より） 2号墳現況（南より） 2号墳周掘土層（北西側） 2号墳周掘土層（北側） 2号墳周掘土層（南側）

I 調査に至る経緯

平成19年6月、株式会社中島土木（以下事業者）から高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成予定地の埋蔵文化財の状況についての照会があった。市教委は、該当の場所が古墳群として遺跡台帳に登録された埋蔵文化財包蔵地内にあるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

平成19年7月19日から20日、市教委は工事予定地の確認調査を実施し、6基の古墳と周堀を確認した。

市教委は埋蔵文化財の保護について事業者と協議を重ねたが、建設計画の変更は不可能とのことなので、事業者から提出された文化財保護法第93条1項の規定による届出について、工事による埋蔵文化財の破壊が確実な旨の協議経過書を添えて群馬県教育委員会（以下県教委）へ進達した。平成19年8月10日付で県教委は事業者へ工事前に発掘調査を実施するよう指示を出した。

発掘調査は市教委の指導・監督のもと、技研測量設計株式会社に委託して実施することになった。

II 調査方法と経過

試掘調査の結果をふまえ、古墳の存在を予想した。そのため、表土の重機掘削は慎重を期した。掘削はAs-B層下のAs-C混黒色土上面まで行い、遺構の有無を確認することにした。古墳調査は、古墳現況の確認後、石材の二次移動の有無を見極めながら、側壁・奥壁・床面の検出等、石室内の調査を行い、その後裏込め状況の調査、周堀掘削を行うことにした。

調査は9月18日から10月9日まで行った。18日、器材搬入後、市教育委員会担当官及び事業者（中島土木）立ち合いのもとに、調査区を設定、ただちに北側より表土掘削を開始した。直に石室裏込めの隙間に当たる（1号墳）。調査区中央部では、As-B層が半円形に残る古墳周堀を確認したが（2号墳）、礫群は検出されない。以南では、As-B層はほとんど遺存せず、予想された古墳周堀の痕跡は認められない。19・20日は鋤簾掛けによる遺構確認。20日午後より石室現況検出、2号墳周堀掘り下げ開始。石室東側は調査区ぎりぎりまで拡張することにした。25日午前中石室現況測量、その後石室内に充満した崩落石材を除去しながら、側壁・奥壁・床面の検出に向けて掘り下げを継続。26日に2回目の崩落石材の除去。1号墳周堀の範囲確認のため東側壁際にトレンチを設定して掘り下げ開始。27日に至り、石室床面の一部検出。石室裏込め観察用のトレンチ設定。同日、2号墳周堀の土層観察と写真撮影。28日、前日に続き石室測量と2号墳周堀土層測量とベルト撤去。10月1日、降雨予報のため、石室調査は中止、調査区南端部東壁から南壁にかけてトレンチを設定、周堀の有無を確認。2日に至り、トレンチ掘り終了、新たな周堀は確認されなかった。同日、石室裏込めの調査再開。地形測量及び1・2号墳周堀の一部測量。3日、石室床面及び側壁前面検出。裏込め掘り下げ及び2号墳周堀ベルト撤去継続。本日中に2号墳周堀完掘、全景撮影。1号墳側壁上部の二次移動した石材の撤去。この石材の撤去は4日も継続。5日、石室全体検出。写真撮影後、測量と並行して裏込め調査継続、本日中に終了。市教育委員会担当官による終了確認と、9日を調査終了日とすることを申し合わせた。

9日、午前中器材撤収準備、午後器材撤収して調査を終えた。

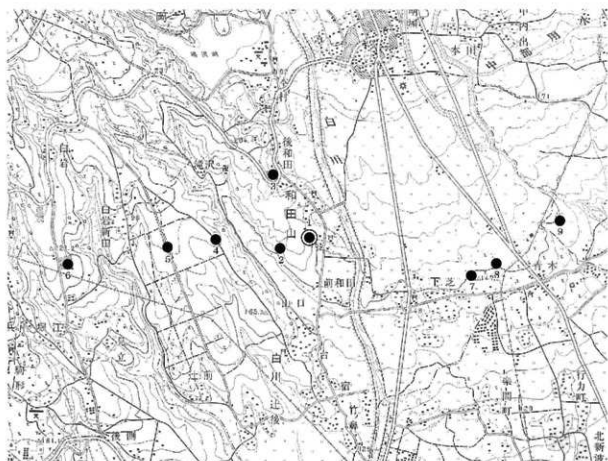
Ⅲ 遺跡の位置と環境

遺跡は、高崎市箕郷町和田山字地藏堂448他に所在する。旧群馬郡から市町村合併によって平成17年度に高崎市に編入された箕郷町は、榛名山の南麓にあたる丘陵地帯で、傾斜地を利用した梅の栽培や、榛名白川と東の井野川との間に広がる白川扇状地で行われている水田耕作など、山間地特有の景観を呈している。近年では、北陸新幹線が開通し、宅地開発も進むなど、徐々に景観を変えつつある。

箕郷町周辺では旧石器時代から中近世に至るまで、著名な遺跡が多い。旧石器時代では北陸新幹線に関わる調査によって、榛名町白岩民部遺跡(6)、白川傘松遺跡(4)、白川笹塚遺跡(5)が発見され、この地域における旧石器時代研究の端緒となる遺跡群であろう。

縄文時代では、早期の箕郷町はるな郷遺跡、榛名町三ツ子沢遺跡や白川傘松遺跡は中期後半の集落、榛名町中里見板岸遺跡は晩期の遺跡である。この時代に関しては鬼形芳夫氏の精力的な研究成果を忘れることができない。

弥生時代では、中期後半から後期の集落である群馬町熊野堂遺跡、環濠集落の高崎市浜尻遺跡、



- | | | |
|------------------|----------|-----------|
| 1 和田山古墳群 | 4 白川傘松遺跡 | 7 下芝天神遺跡 |
| 2 " | 5 白川笹塚遺跡 | 8 下芝五反田遺跡 |
| 3 富岡竹之内・和田山寺久保遺跡 | 6 白岩民部遺跡 | 9 谷ッ古墳 |

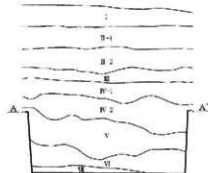
第1図 遺跡位置図 (国土地理院 1/25,000「下室田」使用)

再葬墓の箕郷町中善地遺跡などが知見にのぼる。

古墳時代になると、4世紀の浅間の噴火をのりこえ、水田耕作のいっそうの展開、あるいは鉄器の普及など生産性向上という基盤の上に、豪族居館や大古墳が造営されることになる。井出二子山古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳、三ツ寺の豪族居館跡などが代表的な遺跡である。一方、箕郷町谷ッ古墳の積石塚、下芝五反田遺跡の漢式土器、高崎市剣崎長瀬西古墳の半島製と考えられる馬具などの発見は、技術者集団としての渡来人の存在が指摘されており、5世紀代以降の諸技術の発達や開発の一翼を担ったであろうと考えられている。6世紀前半といわれる榛名二ツ岳の噴火後、6世紀後半以降は、和田山古墳群に見られるように、群集墳が作られるようになる。箕郷町生原、金敷平のほか、群馬町金子、榛名町本郷などにも、平野を見おろす丘陵地帯に群集墳が造営されている。これら群集墳も7世紀後半代にはほぼ造営を終え、奈良・平安時代を迎えることになる。

IV 基本層序

表土層（Ⅰ層）から黄褐色のローム層（Ⅷ層）まで9層に分層される。これは堆積状況の良好な1号墳西側の調査区西壁での観察である。調査区北端部では、薄い表土下にローム混入のごく最近の攪乱層が見られ、この攪乱層は1号墳の東側まで続いている。2号墳周辺は、調査区内では標高がもっとも高く、流出のためか、堆積土層の遺存は悪い。とくに周堀内側の東壁では、表土下がAs-C混入の黒色土（Ⅳ層）となっている。調査区南半から南端部では、As-B（Ⅲ層）は層としては確認されていない。



第2図 基本層序 (S-1:30)

Ⅰ層 10YR4/3 におい黄褐 表土層。ところどころロームブロックを含み、最近の整地面となっている。調査区北端から1号墳東側には表土直下にロームブロックの攪乱層が見られる。

Ⅱ層 2枚に分層した。Ⅱ-Ⅰ層は10YR4/1 褐灰。Ⅱ-2層は10YR4/2 灰黄褐。砂質土層で、明確には観察されないが、As-Bを含むようである。Ⅱ-1層は灰色味が、Ⅱ-2層は黄色味より強い。粘性はほとんどない。

Ⅲ層 10YR5/3 におい黄褐 As-B層。下層に薄く、間欠的に青灰色の灰層が観察される。純層は古墳周堀の凹地に堆積しているが、ほかの地点では間欠的で、調査区南半のように全く観察されない地点もある。

Ⅳ層 10YR1.7/1 黒。As-Cを混入する漆黒の黒色土で、ジャリジャリ感がある。よくしまるが、粘性はそれほど強くない。「C黒」と呼ばれる土層である。

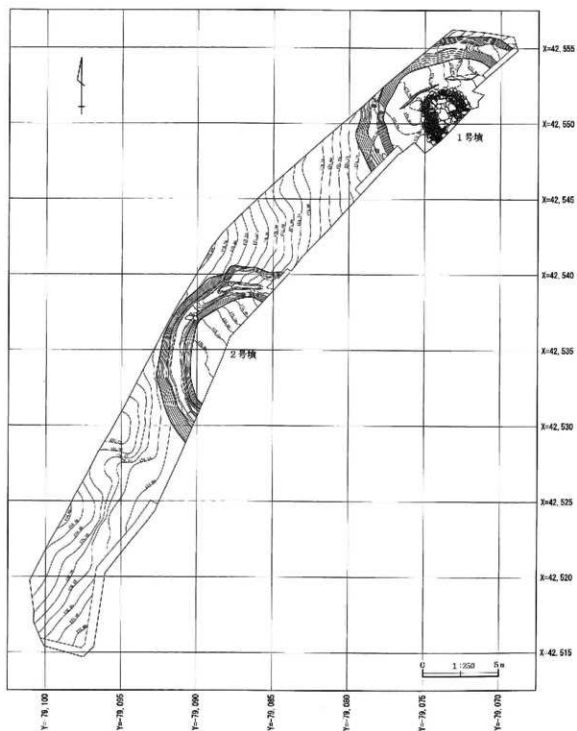
Ⅴ層 10YR2/1 黒。Ⅳ層より明色で、黒灰色を呈する。As-Cを含むが、量は4層より少なめである。粘性がある。

Ⅵ層 10YR3/2 黒褐。やや灰色味があり、As-Cやローム粒を少量含む。

Ⅶ層 10YR4/3 におい黄褐。軟質な漸移層である。やや粘性をもつ。

Ⅷ層 10YR5/6 黄褐。ローム層で、粘性強く、古墳周堀はこの層を掘り込んでいる。

V 検出された遺構と遺物



第3区 遺跡全体図

遺構は古墳2基である。1号墳は石室を検出したが、2号墳は周堀のみである。遺物は少なく、縄文時代前期後半の土器片2点、土師器甕片1点、須恵器甕片2点であり、石室内からは、床面の玉砂利を水洗したが、1点も採取されなかった。縄文土器は1号墳石室掘り方上面より採取した。土師器甕は、S字状口縁の古墳時代前期の甕で、2号墳周堀内側の表土下、須恵器甕は1・2号墳のそれぞれ南側に離れた地点の表土下から採取されたものである。

1号墳（第4・5図）

調査区北端の、東に下る緩斜面地に占地する。石室上面を検出した段階では、かなり遺存良好な石室かとも思われたが、石室内掘り下げ開始から直に、天井石らしい大石や側壁石、裏込め石が石室内に充満している状況が見て取れた。石室内上面にかかる裏込め石もかなり二次移動しているようであった。古墳東側は、すでに宅地造成によって段切りとなり、石室石材の一部が露呈していた。

円墳で、周堀外径約12.5m、内径約9mを測る。周堀はローム層（Ⅶ）をやや掘り抜いており、確認面からの深さは南側で約1.15m、北側で約0.53mを測る。底面は北側と西側との2カ所で順次北に向かって段状に低くなっている。盛土は現状では確認されないが、周堀土層第18・19層が流出した盛土の可能性はある。

石室は、東西幅約3.75m、深さ約1mの方形の掘り方内に構築されている。掘り方底面はローム上面で、石室基壇設置後に薄く埋土を敷き、その上に玉砂利を1段詰めている。石室内法規模は、東西約1.7m、左側壁南端で確認した小口積みの石材（第5図の点線で図示）が玄門の基壇とすれば、南北約1.85mの方形プランを呈することになる。この基壇上にある3石も小口積みで、石室内に傾いている。奥壁は、中央に大石の鏡石を置き、左右に4段ないし5段の石を積んでいる。側壁の遺存は悪いが、本来は3段あるいは4段の石材横置ききの互目積みと思われる。裏込めは、ややおおぶりの石を掘り方壁面に沿うように6段～8段ほど積み上げ、こぶりの石混土を側壁裏側との間に詰めている。掘り方壁面の間隙は土で充填しているが、比較的軟弱であり、版築状に硬質化しているわけではない。この石混土の裏込めは奥壁側には顕著には行っておらず、鏡石下におおぶりの石を詰め、その上方は充填土である。この埋土もとくにきかためたという状態ではない。

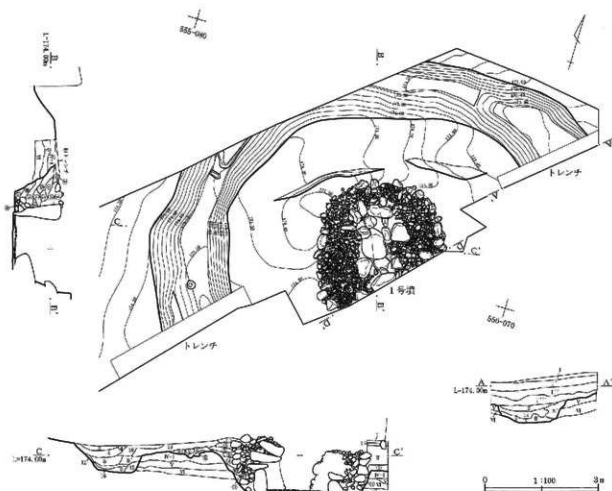
周堀土層は、自然堆積土と思われ、まだ完全には埋まりきらない周堀の凹地に、As-Bが薄く堆積していた。周堀内からの遺物の出土はない。

石室内からの出土遺物も皆無である。床面上面の精査、玉砂利の水洗も行ったが、一片の遺物も採取されなかった。

2号墳（第6図）

1号墳の南西部、調査区内ではもっとも高所の、北東に下る緩斜面に占地する。2号墳同様西側過半のみの検出である。確認時点では、周堀の凹地にAs-Bがほぼ前面にわたって堆積しており、プラン確認は比較的容易であった。東側は斜面地で、予想される周堀地点はやや急な下り勾配である。石室石材は検出されない。周堀西側の覆土上面におおぶりの石が数点検出されたが、石室構築材かどうか不明である。盛土は確認されない。

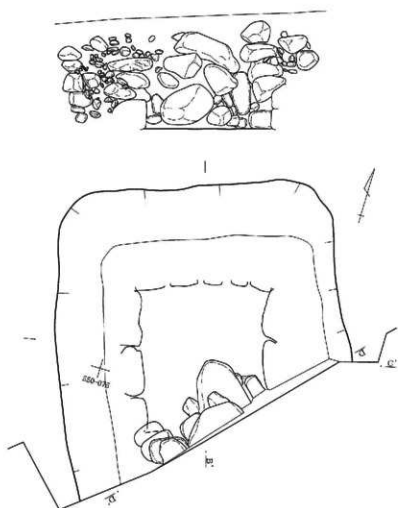
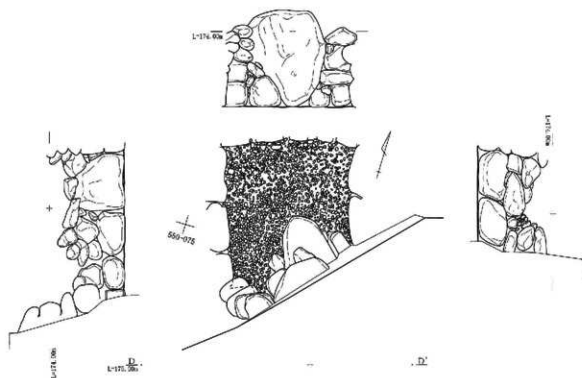
円墳で、周堀外径約13.8m、内径約9.6mの規模である。ローム層を掘り抜いて作られており、



- 1・2号墳
1. 2. 577/3 浅褐色 Aa-b. 下層にところどころ10792/1緑灰のAa-bが埋没する。腐敗の隆起にたまったAa-b. C(浅褐色土)。之地にAa-bがまじる。しまり、粘性あり。
2. 10791.7/1 黒色土 C(黒褐色土)。ローム粒多量にまじる。
3. 10792/1 黒色土 C(黒褐色土)。ローム粒多量にまじる。
4. 10792/2 黒褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
5. 10792/1 黒褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
6. 10792/2 黒褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
7. 10792/3 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
8. 10792/4 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
9. 10792/5 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
10. 10792/6 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
11. 10792/7 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
12. 10792/8 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
13. 10792/9 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
14. 10792/10 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
15. 10792/11 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
16. 10792/12 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
17. 10792/13 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
18. 10792/14 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
19. 10792/15 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。

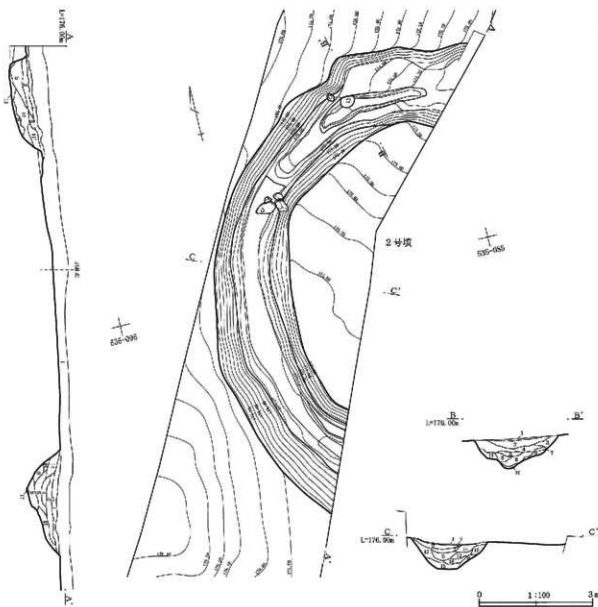
- 1号墳直前直後
- ① 10792/3 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ② 10792/4 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ③ 10792/5 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ④ 10792/6 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑤ 10792/7 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑥ 10792/8 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑦ 10792/9 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑧ 10792/10 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑨ 10792/11 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑩ 10792/12 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑪ 10792/13 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑫ 10792/14 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。
- ⑬ 10792/15 暗褐色土 4層よりやや黄色。C(黒褐色土)にローム粒多量にまじる。

第4図 1号墳



0 1:50 1m

第5图 1号填石室



第6図 2号墳

確認面からの深さは、南側で約0.85m、西側で約0.7m、北側で約0.65mを測る。南側と北側との比高差は約0.35mほどになる。1号墳同様、西側で一段深くなり、北側には幅約0.5m、長さ約2.9m、深さ約10cmの溝状の掘込がある。また、南側の周堀底面には、掘削痕らしい半月状の浅い掘込が数カ所認められた。

遺物は皆無であるが、周堀内側の際から古墳時代前期の土師器甕片（S字状口縁）が1点採取されている。

VI ま と め

今回の調査では、2基の古墳が検出された。いずれも周堀西側過半部の検出にとどまり、全体像は把握しえないが、1号墳では石室が検出された。方形の掘り方内に石材横置き基壇石を据え、互目積みの側壁を構築しており、奥壁には、中央部に鏡石を据える。床面は、薄いローム敷き土の上に玉砂利を敷いている。床面は、とくに攪乱を受けた痕跡はみられないが、予想された鉄器・鉄片などの遺物は皆無であった。側壁裏込めは、小ぶりな石混土を充填し、外側にはやや大ぶりの石を積んでいた。奥壁には、この構築法は見られない。左側壁南端には、小口積みの玄門の基壇と思われる石の一部を検出したが、これが正しく玄門とすれば、石室プランは方形を呈することになる。北陸新幹線に伴う古墳群調査の中で、この種の類例をみると、和田山天神前2号墳が相当するようである。同報告書では7世紀前半～中頃の年代を与えている。本古墳も、この年代観に従い、とりあえずこの年代を与えておきたい。

2号墳は周堀のみの検出で、遺物もなく、年代の想定は難しいが、周堀の掘削法の類似から1号墳と近い年代を与えうるかもしれない。

参考文献

- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 「下芝天神遺跡・下芝上田壁遺跡」『北陸新幹線地域文化財発掘調査報告書第7集』群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本鉄道建設公団
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 「和田山天神前遺跡」『北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集』群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本鉄道建設公団
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 「富岡竹ノ内・和田山寺久保遺跡」群馬県西部県民局・財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 筑前町誌編纂委員会 1975 「筑前町誌」
- 群馬県史編纂委員会 1990 「群馬県史通史編1 原始古代1」
- 若狭 徹 2004 「古墳時代の地域社会復元 ミツ寺1遺跡」新泉社
- 鬼形方夫 「遺跡の動脈と集団関係 榛名山麓における縄文時代遺跡の現状と課題」

写 真 图 版



遺跡遠望（南東より 手前は白川）



調査前全景（北側 北より）



調査前全景（中央部 南より）



基本土層



調査風景（1号墳）



遺跡全景（南より）



1号墳現況（北西より）



1号墳現況（南東より）



1号墳全景（北西より）



1号墳周掘土層（南側）



1号墳周掘土層（北側）



1号墳石室全景（南東より）



石室全景（北西より）



石室全景（北より）



石室全景（南より）



奥壁（南東より）



左側壁



右側壁



掘り方・裏込め (左側壁)



掘り方・裏込め (右側壁)



掘り方・裏込め (奥壁)



左側壁南端部 (北西より)



裏込め状況 (北西コーナー)



裏込め状況 (北東コーナー)



2号墳全景（南より）



2号墳現況（南より）



2号墳周掘土層（北西側）



2号墳周掘土層（北側）



2号墳周掘土層（南側）

報告書抄録

フリガナ	ワダヤマコフンゲン							
署 名	和田山古墳群							
副 書 名	民間開発（宅地造成）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書 第219集							
編 著 者 名	宇佐美義春							
編 集 機 関	高崎市教育委員会							
所 在 地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地 1							
発 行 年 月 日	2008年 3 月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺 跡	北緯	東経			
ワダヤマ 和田山古墳群	高崎市箕郷町 和田山字地蔵 堂448他	10202	407	36° 22′ 35″	138° 57′ 20″	2007. 9. 18 } 2007. 10. 9	約300㎡	宅地造成
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
和田山古墳群	散布地	縄文時代				土器片		
	古墳群	古墳時代		古墳 2 基		土器片		7世紀代の石室

和田山古墳群

一 民間開発（宅地造成）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年 3 月28日 印刷

平成20年 3 月31日 発行

編集・発行／高 崎 市 教 育 委 員 会
群馬県高崎市高松町35番地 1
T E L 027-321-1292

印刷・製本／朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67
T E L 027-251-1212